

艷麗 種色

處女七種

卷

^ 13
3227
5



門 へ 13
 3227
 5

中世の本草

昭和十年
 七月十四日
 東京

自序

古人為水耕筆耕、硯澆之、此處也

七州之書卷の周、極、年、に、已、子、等、

維、よ、多、く、元、才、能、り、の、妙、を、得、る、の、丹、精、色、を、と、

る、よ、著、し、其、を、漸、く、よ、人、共、母、を、知、る、に、至、る、に、

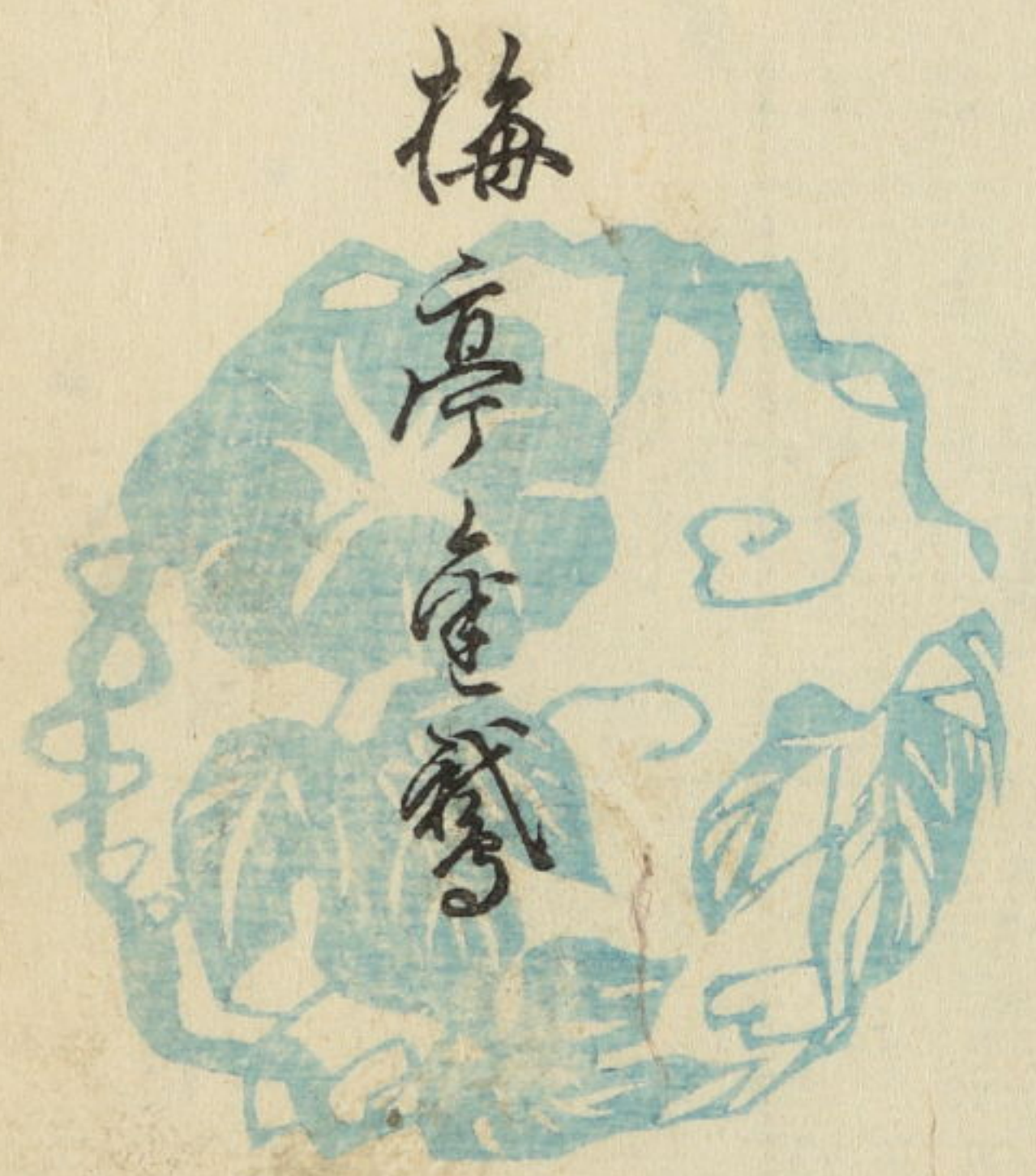
七、種、の、生、物、花、を、と、四、日、色、を、に、將、ハ、黄、を、此、

字、と、な、り、て、今、に、依、り、て、今、に、依、り、て、今、に、依、り、て、

増ひのこもは花を咲せよと園の主人が訓へせ。
 ありきもせしは種を種よりのとてあまに一鉢入
 へるべきの肥しの利ぬ州、おききと伸立ぬも
 何とぞと松の大人が流井、おさうやらかうやう取
 付ん花咲まをよき為しと先小翁がのりしる。
 何州に並べていん人さ及者何しとてはその
 七種の様とりてぬも思さよ續とに深泉の布れ

七六六〇一

竹ののりお、あめあうくの姿さう、はばらん、はばらん
 程とあやみよの







秋色 艶 處女七種 第六編卷之上

東都 梅亭金鷲編次

第三十回

河風ききこふる音。冬に於て秋園に。漁樵船の舟火も。
 消て寂しき夜の面。岸辺の草の露不降。月のごとく。
 皎く。江とて悠々。水もろりあて。いと物凄き天満の河。
 岸。息急強き。三四人。を処等。きりあけ。りえやりつ。
 止まりて。さうあやう。声。物をもひきり。と。逃げて。あこ



あやア遠くわ入ぐ。何処へ性やアがところあるん。「おれヨ不
測ど。支後遠くまで性もさアわくけと一をまておれ
こののラ。産まきてつまるのう子へ。志を来えんといふりの
どと。何知へ性さうかひの煙ど。全所かゆえんが無いど。自若
ツちが波の女の依の奴等ふ喧嘩とあつて居るま裡お
あつて何れうも成バ臣のお。悪徳とあて居るさうら。支を
逃らして仕舞さしどア。一ナア自己の仕合をわすつて
落葉法の花屋のの果入引扱込で捲巻と正と逃れ
後ろろ。さうといふおれいと採草の解さもりのけの傍待ど。

おれつゝまへに殺さぬと。彼方の逃んと一生致命。身と捲き
あせると裡ふ。何れゆふ都合うやメえ解て上表がまお
ゆり。下表をうけて近物とと。逃らしてのと逃りける。是下の
沈滞おとてさう作り作る。精んで起るとひまふ。さうく
何知えんえんさうあ。せつまりあし。目あア。エんとはるも
あいの泡。さあ、株よつまうね。がらりあうるも後身
取き込を傍ろ。アアアのモシ。を扱ふかとあさわ入で

八と志まひあひ入一處有るむ二處之入人の妨げする性良
親念ありとおてかると「イヤあよこせな」故情冷断等ト
揺潜つて胸先と足りてちつこと確らせが陰謀まがら
作向ふひりちうの初きえを續てかろ極の穴をレ取
六と交結してひやぶらるゝと振解き巻と巻めて横髪
と髪尖と薙まひ穴をひ喉とちり眼をあきひるむふと
牙入て物づらよとんえ口じが曳と交うけ脊負抱ふ
岩よりりいんぶらと河原をりと水邊あひおまゝと承六

上へ糸双方一處不絶月の船の中より乗入舟を以の
棒と引提り躍り如く急きおと承六目をて後ろろ
力の隅り脱するを叩き薙まひ血涙ともさの想ハトと
逃物とてた進さるふ後方より胸天肩先滅多おちち
すえらまてアいらと痛へ痛への憂えも凸凹たて一ふふ
と唇と通して性跡え送つてあめ舟心現映けおおまひ
「まうらうく。まんと弱いぬきおやア口をくせんう」イヤとんご
口くろくろくま色も係お陰さるで私しも彼娘も小侍



解の
あつた
あつた
あつた
あつた



一夜も女舟買と。表ね人といふう。まぢやア遠く。んお
 小来と詮がね。今ねいひ処へ船と泊て自己が返
 すのち辰と来てさうう。山の種も移んで来さう。有少
 う。小森もんどう。そねなるう。知るもんど。孫食
 久ゆつてう。他の奴等小使きて由。他の土地は兎も角
 由。大坂へ往て。女舟のつらまへ。買せてきさう。あんど。
 きの利ね人下して自己が笑つてう。サア。食さう。来と
 移んて来のと。船改まて居て。追ひ出てきりや。とらう。大坂
 明方でや。ちやア。ぬつて来や。まへ人。モシ。業さんとや。う。か
 あさん。口業。芳で由。今うう。けいお。燦の。おま。送る。屋
 け。かよる。せへ。ア。親に。さん。送。が。物。振。ふ。来。ど。か。お。ど。ら。加
 ま。や。ア。あ。ね。人。と。ま。う。大。入。松。堀。里。用。イ。ま。の。つ。ア。後。切。と。ト
 利。急。の。火。打。丸。出。カ。チ。く。と。お。つ。け。て。ら。あ。ら。す。相。茶。の
 踊りより。鏡作ど。表ね人といふことなる。

第三十二回

小徳と遊めて。業次舟。長み舟。小舟。対ひ。ぬ。秘。を。あ

の不佞^{ふべい}任^{にん}て。亦^{また}不^ふおろ^ろよ^よの^の等^らへ^へる^る程^{ほど}困^{くわん}つ^つて^ての^のと^とま^まと^と也^や。
探^{たづ}つ^つて^ても^もと^とま^まの^の事^{こと}柄^{がら}の^の多^{おほ}く^くと^との^の事^{こと}も^も不^ふま^まり^り。そ
と^とへ^へた^たら^らう^うの^の性^{せい}と^との^のま^まで^での^の物^{もの}程^{ほど}も^もう^うら^ら丁^{てい}人^{にん}對^{たい}て^て極^{ごく}ぬ^ぬと
後^{のち}の^の事^{こと}も^も馬^{うま}の^の身^み不^ふ凡^{ぼん}さ^さう^うと^とま^まを^を流^{なが}す^すた^たけ^けて^て至^{いた}り
信^{しん}不^ふ由^{ゆう}性^{せい}也^や。不^ふ冷^{れい}も^も元^{げん}不^ふ居^きて^て。秋^{あき}又^{また}さ^さの^の名^なを^を本^{ほん}依^い
の^のり^りと^とあ^あの^のつ^つん^ん世^{せい}の^の周^{しゅう}す^すも^も持^{もち}ら^らて^て。先^{まづ}當^{あた}り^り下^{くだ}時^{とき}の^の字^じ取^と
實^{じつ}人^{にん}を^を至^{いた}る^る至^{いた}る^るの^の性^{せい}。幼^{せう}稚^ち程^{ほど}裡^りに^に大^{だい}人^{にん}愛^{あい}海^{かい}針^{しん}も^もあ^あひ^ひ合^あ
と^と味^{あじ}縁^縁。秘^ひ方^{ほう}古^この^のる^る少^{せう}の^の秋^{あき}又^{また}さん^{さん}や^や私^しの^の肩^{かた}の^の標^{めし}標^{めし}磨^まり
女子^{こしよ}や^やつ^つん^ん世^{せい}の^の老^{らう}違^{ちが}ひ^ひが^が教^{きやう}る^るが^が此^{こゝ}の^の陰^{いん}に^に不^ふ由^{ゆう}。養^{やう}ふ^ふと^とば^ば
矯^{きやう}し^して^て。未^み特^{とく}を^をく^くあ^あふ^ふつ^つけ^け。悪^{あく}の^の病^{びやう}ひ^ひの^のゆ^ゆね^ねは^はい^いの^のゆ^ゆね^ね
速^{すみ}者^{もの}不^ふ志^して^て秋^{あき}し^しの^の秋^{あき}考^{かう}さ^さる^るへ^へ川^{かわ}流^{なが}る^る。此^{こゝ}の^の秋^{あき}と^とう^うけ^ける^るも
可^か愛^{あい}い^い一^{いつ}心^{しん}内^{ない}揚^{やう}る^ると^とあ^あの^のま^まで^で。矣^や強^{きやう}の^の秋^{あき}の^の慈^じ目^めう^うと^と交^{かう}
ふ^ふか^かあ^あの^の大^{だい}膽^{たん}を^を。秋^{あき}の^の許^{もと}さ^さぬ^ぬ不^ふ後^ご淫^{いん}奔^{ほん}。と^とい^いの^のあ^あの^の
年^{とし}以^{もつ}ふ^ふ。あ^あの^の誰^{たれ}も^も月^{つき}し^しる^る。人^{ひと}の^のせ^せぬ^ぬり^りあ^あの^のあ^あの^のど^どう
せ^せ一^{いつ}夜^やの^の縁^縁付^つ身^み。あ^あの^のあ^あが^が好^{この}と^と男^{おとこ}る^る。そ^その^のや^や傍^{そば}せ^せて^ても^もあ^あの^のま^ま



とんこめかしの一方は
冬に梅 冬に梅
冬に梅

ませうが。美法亭といひおあこいひは松る娘素があらうと思
ふ。彼養さん小由何松とてアア異かん理屋がやまはせり。云ても
ゆらぬ悪痛なぐう何松は人小彼松とと表向うう云んで娘入
松小のあて異ぬ。とらと分る母松が。云葉小お枝の返辞え入
涙の袖小堰放むとと平伏をまおろす。肩の正と揺られ
忽地目覚めて見迎とてんまは。是らん楠柯の一爰あり
第又編下の花の始め小ある見画の爰のともろと
大越して出せるものとなんぬる

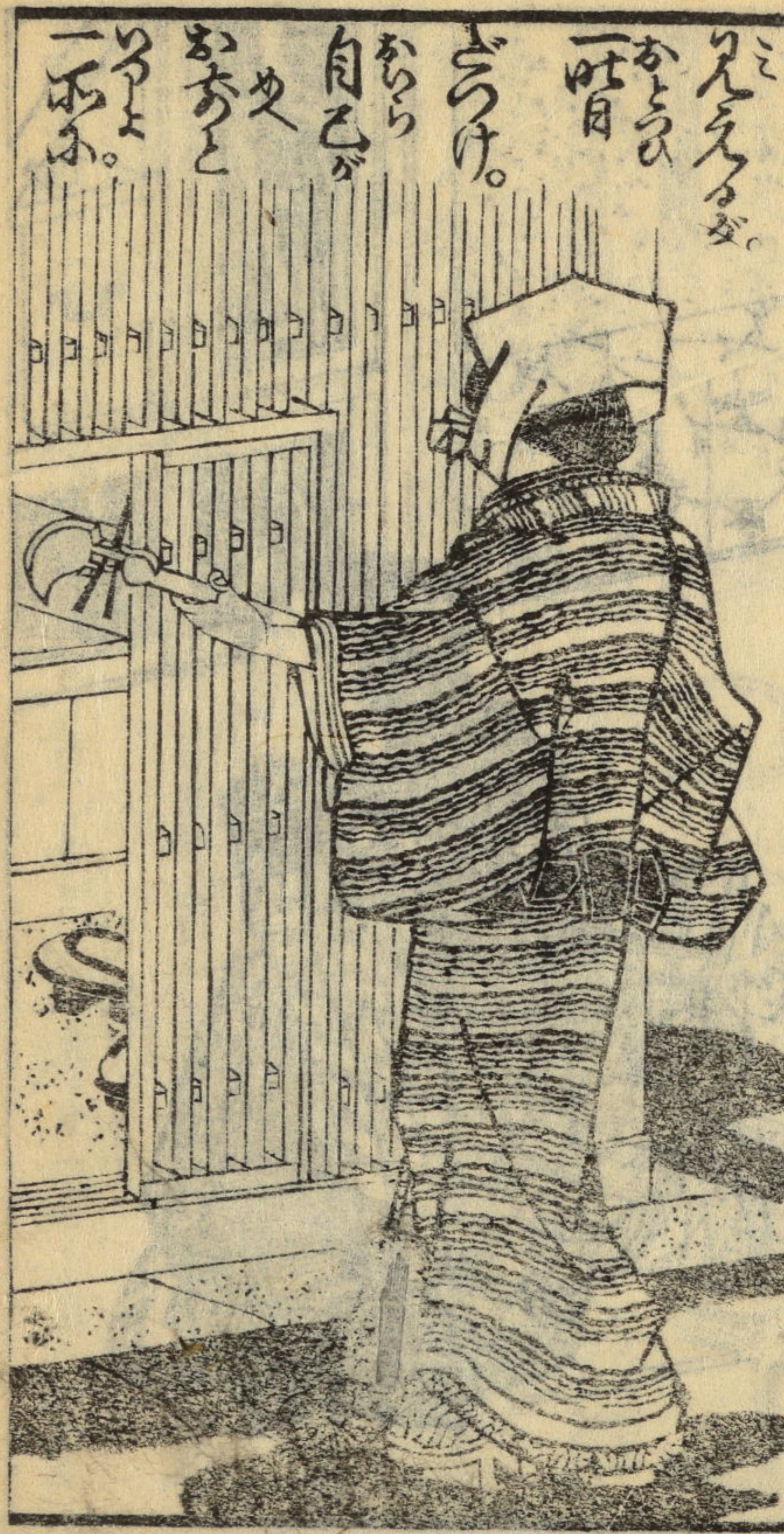
お枝の袖の涙と拭ひ。秋と物げかきこらる。その人を
とる物々。枝「イヤ、美さんいつの年小お出ますらう。新
やア些もねトませんらう。イヤ、ヤとんとあぢわへおる
すすぞ。そしと精藤とて凡でも引といけおせ。枝「ハイ
おら、アアア子孫小精藤さんぞとあつらひおしませんぞ。
ゆら物とと監くう。吾アまゝお出で来ますらう。おと
志見申うとあつて。松小松とて夫法おひの葉松をトと
つらあつと下中。就と涙とつらとて。一糸をあら

【愛でもおつんのおやアないう】^枝「ハイ傑おまう悪いお愛と
【何ごうなをうぐい】^{ひら}「一人て愛と愛さう園とりのいのご
【愛でも兄さんのこと】^あ「さんぞい。男のうごうじばやそのと紋
【愛とかしごうて】^あ【自然とけきど。私ひ女の身で。お又さんや
【お母さんおはねおん】^お【とそまきいん】^あ「まご娘まうごヨ
【愛とままうと。実お自己が。空もをいんあてくる。おまど
【とてつらなる傑お大人い】^い【とんおお評判さしていらおと。どう
【中らうう中らそらう】^い【溪舟のいおまこ上で果いさうくおと

【し七愛おあお身おまおまおまのけいお人て情おあ
【向ておまご】^い【おまご】^あ【おまご】^あ【おまご】^あ
【支つて。おまご】^い【おまご】^あ【お又さんやお母さん。又ま
【さんおごりくも。おまご】^あ【人情のあつてのい。おつていまごうあ
【おまご】^あ【おまご】^あ【おまご】^あ【おまご】^あ
【おまご】^あ【おまご】^あ【おまご】^あ【おまご】^あ
【おまご】^あ【おまご】^あ【おまご】^あ【おまご】^あ
【おまご】^あ【おまご】^あ【おまご】^あ【おまご】^あ

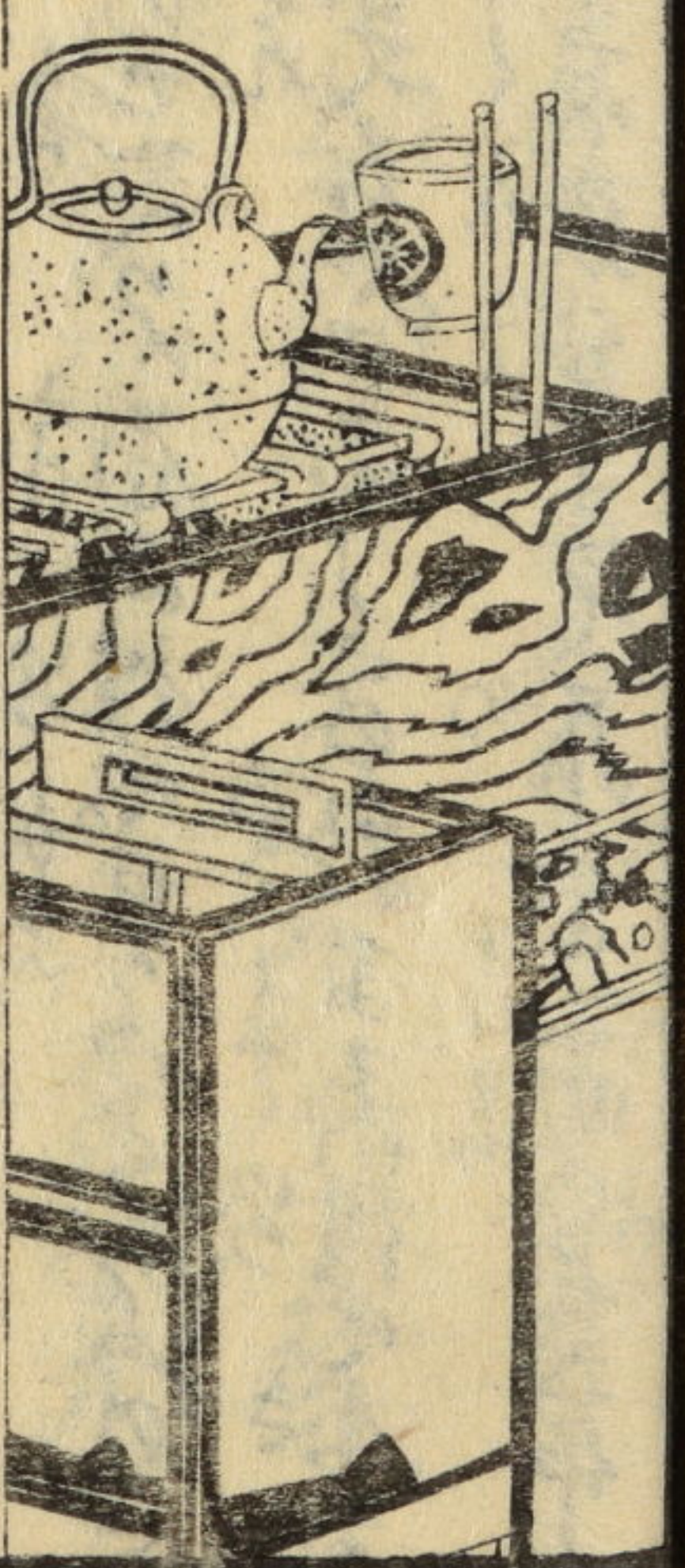
結く透す。一、三、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百。
あつたまふ。下、上、中、外、内、門、つ、け、の、あ、え、ん、と、吹、出、す、
尺、寸、も、イ、ヤ、別、款、と、發、く、五、分、ト、ヤ、ア、ね、り、一、丈、で、自、紋、心、と、
あ、る、処、と、山、枝、ご、り、の、チ、一、を、と、身、で、あ、る、五、と、編、ま、奴、も、枝、
あ、ん、ご、一、丈、の、五、が、ま、さ、ん、お、あ、さ、ん、お、連、ら、あ、る、の、又、一、
人、サ、と、云、な、が、ら、お、ど、ろ、と、送、入、て、去、り、あ、り、チ、ヤ、唯、の、あ、り、
愈、先、刻、湯、を、注、いで、私、一、を、り、サ、一、その、ア、烟、交、互、之、を、
一、サ、は、方、へ、お、出、る、と、お、ト、大、神、の、傍、へ、連、行、ば、ま、さ、ん、の、茶、
あ、る、五、十、代、の、茶、と、汲、烟、を、二、ど、吸、ひ、付、け、出、給、さ、り、
男、の、側、小、より、傍、の、一、け、る、も、信、と、ま、り、何、れ、で、も、田、舎、
仕、ま、け、や、ア、成、れ、又、仕、ご、う、外、の、衆、に、け、て、坐、す、と、味、
線、一、投、の、を、処、の、内、へ、ま、り、一、投、の、か、お、深、く、煮、や、す、と、
つ、て、お、て、ま、さ、す、の、と、門、と、二、寸、の、と、柴、火、の、門、つ、け、
甘、く、晒、房、さ、ら、う、一、人、の、む、も、知、る、の、心、お、茶、を、え、ん、の、味、
一、丈、の、心、を、ま、さ、す、一、何、の、氣、樂、処、ら、あ、ん、の、若、し、海、邊、ご、ア、
一、度、の、是、派、來、ると、お、云、な、旅、け、ま、ご、方、一、あ、れ、切、お、目、本、を、

くらきとるい。物知へな紙とせいの席のござ。肝心な用向と。
 ちりまき。はるもおまけやてをきんごう。律ふまふ改て。今まを裏て居
 起で申座います。美心する羽之りの後甘のまをけりやア
 ね人のござ。えんとおぬ程せや。出来て来るるゆふも程ゆく改と。
 おおりの隠る。いささゆがみことあらう。け自己の妹と。アけ
 表初弁の代。柿島の去なで一寸お目おをりま。とあのお枝
 きんとら。おの志をいまして。一友根サ。一友が何根りも改ま。この
 久一。後的一。およ。出来ると。今解被後的一。妹と。子使のうら
 う。う。おのの師匠さん。ひと。お茶の湯。と味。後ま。で。公。合
 一。お。同。下。火。性。と。い。ん。ご。う。何。所。の。か。ら。う。出。来。て。居。る。の。と
 兄。え。る。女。
 お。と。う。ひ。
 一。吐。目。
 ぶ。り。け。
 自。己。が
 一。お。お。と
 一。お。ふ。





空をやみかたの
 おちくのち きつ
声



ろげり アキウ いつ あそ ア あのとまのいかにこころ
 露月の別荘へ往て逢くゆつて彼時妹の和衣町ふき玉の
ゆえん そごふねん あやまん しやうふ せーがう えんまで
 僅ぐ和合連の茶室であつて。松亭の牙子体も愈ゆる
せひ こ こさく ちやう ま
 う。是服えふまのとりつて。然く逢ひが来こめんどう。自の
さき で のり とも さか ま
 芳方うういけりて。彼の女や男どもと。茶室の座へ
かき ざう どこ ま い のり せん 千代
 をあふ。物処へ人清くあつて。と云一得サマヤチヤをま

あやア彼後入身さんとして仕方のままに。それか出せぬ。これに

「緊要してア暫くお入れれど。何故にわけ向島の故に仕方の。

後のが連て流して。為る者の如く。速くして。疾うと。さあか

とがあらけほど。自己ア為る者との格別を安くおへう。此の姓

とて。速くんと。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。

か使若おれんで。為る者の如く。向島の姓に。世うかと。あやアのど

左松で。仕方のままに。交まら。アあ。この姓。子天姓に。奉ま

せうアノ。為る者さん。之。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。

まんと。あやア。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。

あつて。あやア。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。

こと。あやア。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。

今。あやア。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。

あやア。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。

あやア。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。

あやア。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。

あやア。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。おしへて。

ゆめ。おぼろしくとて候う。何う宿務。終る。程隣の門。さうりく
と。あ。おぼろしく。下。り。人。結。ぶ。の。さ。う。決。し。く。う。す。考。ア
及。び。わ。ん。と。ま。ま。と。つ。る。考。小。須。得。さ。を。後。的。と。お。校。不。違。て。も
お。い。ら。が。さ。う。し。ら。と。ま。ま。能。法。と。は。其。わ。り。と。ま。ま。か。子。大。の。類。と。不
合。長。ア。ま。ま。う。り。人。秋。ま。も。私。さ。も。保。不。持。し。う。能。を。ま。ま
ま。ま。ま。う。り。ご。お。校。さ。ん。の。ま。ま。も。ま。ま。の。い。は。ま。も。ま。ま。の。い。は。ま。も
ま。ま。の。ま。ま。子。ア。高。等。サ。世。だ。の。し。ら。い。の。後。ま。ま。遊。う。保。れ
ま。ま。の。保。が。あ。る。の。う。ア。ア。子。を。お。さ。さん。不。笑。て。ご。あ。る。ま。ま。と
お。校。さ。ん。の。此。の。う。り。尺。付。さ。ん。す。ま。ま。の。ま。ま。不。回。念。人。か。出。の。で。ま。ま
ま。ま。ま。う。ア。ア。を。保。ま。の。の。カ。ア。ま。ま。お。ア。私。さ。ま。ア。何。日。の。保。ま。ま
の。お。へ。保。ま。ア。止。ま。ま。う。ヨ。何。れ。と。ア。何。れ。と。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま
け。ま。の。尺。が。付。ま。の。と。何。れ。と。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ソ。ラ。亦。私。に。わ。ん。ま。ま。と。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま
し。と。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま
て。一。所。月。お。ま。の。の。の。の。能。を。解。て。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま
あ。ま。ま。の。の。ラ。他。不。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま
あ。ま。ま。の。の。ラ。他。不。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま

あ。ま。ま。の。の。ラ。他。不。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま。の。保。ま。ま

解ね人（我）「オアをわがさんふの（こら）解らまの（おひ）とあふら（それ）。使で（い）ねさ（ま）がな
 が採る（わ）。有（ま）ま（ま）ア子「何が（ま）あさんふの解らねと（い）ら（ま）ア（ま）
 もぢまの（ま）あさん（ま）の（ま）が（ま）「自（ま）この（ま）心（ま）が（ま）解らね（ま）の（ま）あ（ま）る（ま）の（ま）
 け（ま）も（ま）解（ま）し（ま）と（ま）なり。解（ま）の（ま）切（ま）の（ま）店（ま）の（ま）「今（ま）の（ま）あ（ま）さん（ま）の（ま）心（ま）は
 つて解（ま）る（ま）け（ま）ま（ま）に（ま）を（ま）ま（ま）る（ま）の（ま）の（ま）日（ま）と（ま）解（ま）と（ま）中（ま）で（ま）今（ま）日（ま）あ（ま）る（ま）日（ま）。
 昨日（ま）より（ま）後（ま）日（ま）と（ま）解（ま）の（ま）心（ま）は（ま）で（ま）か（ま）は（ま）解（ま）と（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）と（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）と（ま）一（ま）本（ま）も
 二年（ま）も（ま）見（ま）入（ま）依（ま）り（ま）の（ま）あ（ま）さん（ま）の（ま）心（ま）を（ま）解（ま）の（ま）監（ま）と（ま）ば（ま）解（ま）る（ま）程（ま）
 小（ま）解（ま）と（ま）然（ま）しく（ま）解（ま）る（ま）ま（ま）せん「其（ま）の（ま）解（ま）の（ま）文（ま）を（ま）ば（ま）ね（ま）が（ま）一（ま）本（ま）
 うる程（ま）通（ま）の（ま）の（ま）目（ま）と（ま）解（ま）と（ま）依（ま）が（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）多（ま）人（ま）百（ま）年（ま）ま（ま）の（ま）て
 今（ま）の（ま）心（ま）と（ま）解（ま）る（ま）中（ま）の（ま）心（ま）を（ま）解（ま）る（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）ね（ま）と（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）と（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）
 所の（ま）流（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）上（ま）と（ま）人（ま）が（ま）解（ま）る（ま）京（ま）の（ま）引（ま）人（ま）が（ま）多（ま）い（ま）う（ま）今（ま）で（ま）せ（ま）人（ま）は
 中（ま）へ（ま）と（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）解（ま）る（ま）の（ま）日（ま）と（ま）二（ま）月（ま）を（ま）送（ま）る（ま）日（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）解（ま）の（ま）機（ま）関（ま）が
 中（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）て（ま）先（ま）と（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）の（ま）心（ま）と（ま）解（ま）と（ま）突（ま）出（ま）と（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）解（ま）と（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）
 中（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）ね（ま）と（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）と（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）と（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）と（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）
 とあ（ま）ら（ま）う（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）とあ（ま）ら（ま）う（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）とあ（ま）ら（ま）う（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）
 美（ま）の（ま）解（ま）とあ（ま）ら（ま）う（ま）解（ま）とあ（ま）ら（ま）う（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）とあ（ま）ら（ま）う（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）
 一（ま）本（ま）とあ（ま）ら（ま）う（ま）解（ま）とあ（ま）ら（ま）う（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）とあ（ま）ら（ま）う（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）
 解（ま）とあ（ま）ら（ま）う（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）とあ（ま）ら（ま）う（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）とあ（ま）ら（ま）う（ま）の（ま）あ（ま）ら（ま）う（ま）

ところのあり。女ごしあつておむらぬのせいであります。それ
 えねく。自分のしつとせんと。重く後とせらう。自己
 別する。おちと除て代わらぬ。何れも女ごあつても。男
 ありへとせむ。世間人。不義理。親達。不由。苦者。よそ。強
 いで居る。おせし。せむ。の。ね。の。ト。お。お。の。ね。を。せ。ん。と。自
 分。を。う。実。が。あ。つ。て。自。己。の。心。の。ま。の。名。実。者。ご。と。あ。つ。て。居
 る。ご。ら。う。一。ア。レ。た。根。と。や。ア。あ。ま。せ。ん。ご。と。一。た。根。で。あ。け
 る。ア。根。あり。の。底。あり。た。根。人。の。心。を。疑。う。あ。ア。及。ぶ。め。人。一。支
 て。も。を。い。田。舎。へ。住。て。お。住。舞。の。派。と。あ。ふ。と。傳。不。れ。が。探。て。あ。り
 ませぬ。の。ラ。一。自。己。ご。ら。う。平。も。也。も。展。わ。け。せ。ど。と。お。け。ら。し。ま。て
 仕。方。が。わ。く。く。と。一。支。だ。ア。あ。あ。の。年。を。と。て。も。人。持。や。と。あ
 ませぬ。ね。一。支。だ。め。人。ヨ。一。支。だ。し。い。是。か。を。ね。な。ひ。ご。い。の
 と。す。ら。と。息。を。止。ら。ア。一。支。だ。弱。い。わ。く。は。門。の。戸。に。あ。つ。て。海。を。来
 る。湯。ゆ。り。お。二。人。の。一。寸。容。料。と。改。め。一。支。だ。コ。ヤ。お。海。を。う。大。遠。倉。を
 つ。ゆ。湯。ご。子。へ。一。支。だ。お。ま。い。お。ら。ま。り。換。所。の。柏。子。木。が。回。つ。て。仕。度。と。よ
 と。の。お。り。上。階。の。み。づ。の。隣。ゴ。ラ。ウ。ン。リ。彩。及。と。あ。る。按。摩。の。節。と。い。ふ。事。

ところのあり。女ごしあつておむらぬのせいであります。それ
 えねく。自分のしつとせんと。重く後とせらう。自己
 別する。おちと除て代わらぬ。何れも女ごあつても。男
 ありへとせむ。世間人。不義理。親達。不由。苦者。よそ。強
 いで居る。おせし。せむ。の。ね。の。ね。の。ト。お。お。の。ね。を。せ。ん。と。自
 分。を。う。実。が。あ。つ。て。自。己。の。心。の。ま。の。名。実。者。ご。と。あ。つ。て。居
 る。ご。ら。う。一。ア。レ。た。根。と。や。ア。あ。ま。せ。ん。ご。と。一。た。根。で。あ。け
 る。ア。根。あり。の。底。あり。た。根。人。の。心。を。疑。う。あ。ア。及。ぶ。め。人。一。支
 て。も。を。い。田。舎。へ。住。て。お。住。舞。の。派。と。あ。ふ。と。傳。不。れ。が。探。て。あ。り
 ませぬ。の。ラ。一。自。己。ご。ら。う。平。も。也。も。展。わ。け。せ。ど。と。お。け。ら。し。ま。て
 仕。方。が。わ。く。く。と。一。支。だ。ア。あ。あ。の。年。を。と。て。も。人。持。や。と。あ
 ませぬ。ね。一。支。だ。め。人。ヨ。一。支。だ。し。い。是。か。を。ね。な。ひ。ご。い。の
 と。す。ら。と。息。を。止。ら。ア。一。支。だ。弱。い。わ。く。は。門。の。戸。に。あ。つ。て。海。を。来
 る。湯。ゆ。り。お。二。人。の。一。寸。容。料。と。改。め。一。支。だ。コ。ヤ。お。海。を。う。大。遠。倉。を
 つ。ゆ。湯。ご。子。へ。一。支。だ。お。ま。い。お。ら。ま。り。換。所。の。柏。子。木。が。回。つ。て。仕。度。と。よ
 と。の。お。り。上。階。の。み。づ。の。隣。ゴ。ラ。ウ。ン。リ。彩。及。と。あ。る。按。摩。の。節。と。い。ふ。事

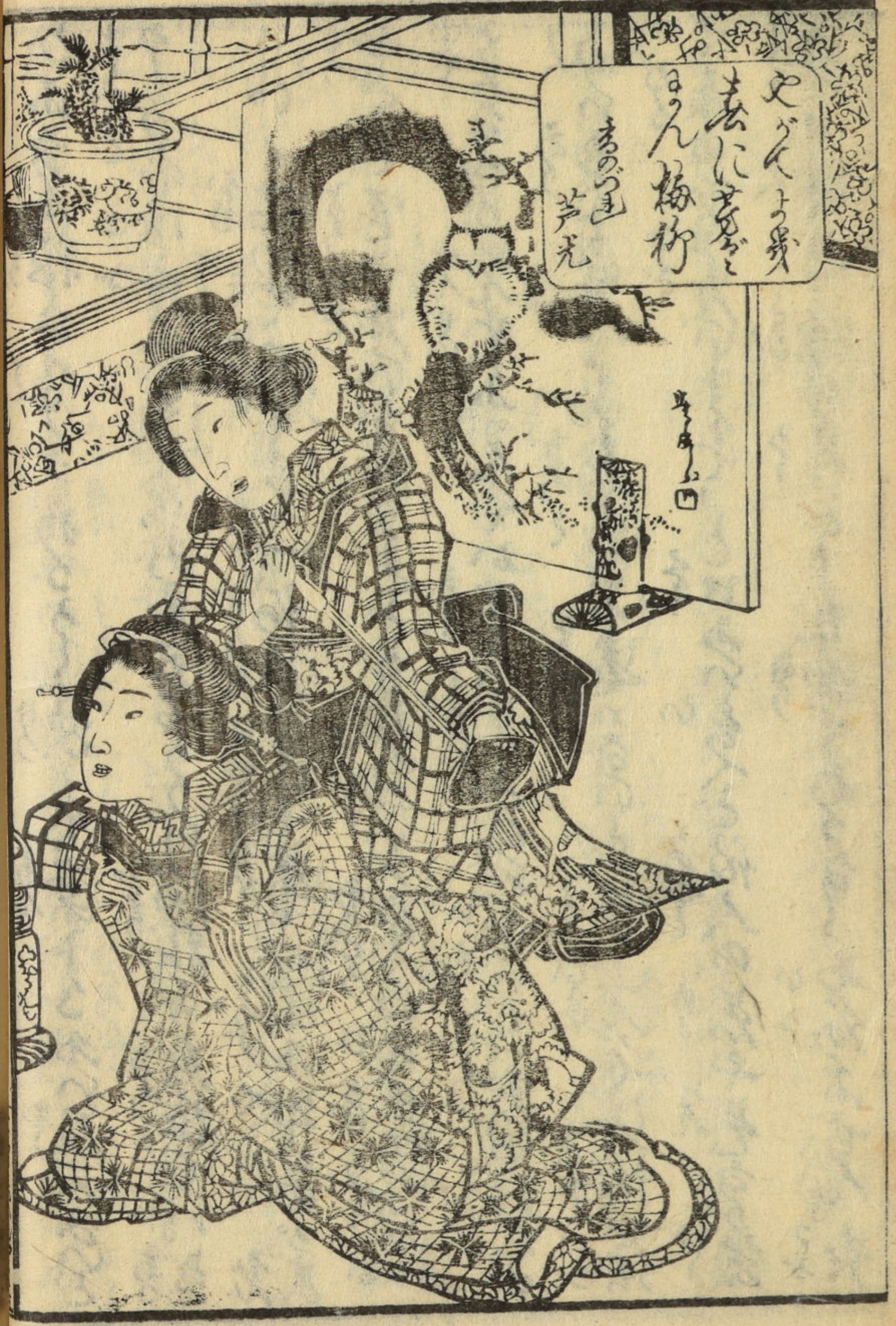
第三十四回

再鏡去る日。後法の後室か死に別家多。波の美と未お
いせん。下先花終く。海んと。府中の。就まて。あし。不
肩の二階ふ。不名。の。候。候。ある。隠。床。不。邊。の。こ。ろ。へ。ん。筋。
え。物。を。合。せ。願。ふ。死。し。る。業。毒。と。く。世。お。お。ひ。る。ま。病。術。
めて。毒。及。け。世。の。人。と。り。於。種。の。良。業。と。用。ひ。て。療。
治。り。け。ま。す。が。十。に。六。日。と。終。る。不。ど。ふ。う。好。願。し。き。者。病。も。
今。い。金。く。快。を。名。為。せ。む。か。死。に。交。り。候。の。あ。の。ま。を。を。

候。び。い。ん。方。多。業。毒。の。種。毒。病。終。ふ。心。の。う。き。り。の。
礼。と。の。ぐ。花。終。く。ゆ。ら。の。毒。家。と。終。局。と。う。さ。せ。り。人。な。ど。
いと。出。ま。り。く。ま。け。見。と。病。散。り。と。の。種。の。種。の。種。の。
別。と。つ。げ。親。と。終。と。出。花。終。と。う。く。そ。と。う。る。業。毒。
へ。終。由。け。如。お。世。の。用。さ。り。ま。け。ま。す。が。終。局。不。終。の。日。と。終。
て。後。か。死。と。引。連。は。知。と。ま。出。さ。て。終。余。久。ま。け。ま。す。終。
は。ある。別。莊。と。邊。中。の。終。局。と。候。ま。不。可。得。本。終。の。
大。隠。床。毒。未。お。ま。終。未。終。と。ま。て。別。家。の。老。い。り。入。目。

あつとある杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
つとえ。杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
お杖がゆると杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
まゝか。杖の口もあつた。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
あつとある杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
お杖がゆると杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
まゝか。杖の口もあつた。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
あつとある杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
お杖がゆると杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
まゝか。杖の口もあつた。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。

あつとある杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
お杖がゆると杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
まゝか。杖の口もあつた。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
あつとある杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
お杖がゆると杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
まゝか。杖の口もあつた。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
あつとある杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
お杖がゆると杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
まゝか。杖の口もあつた。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。
あつとある杖を杖ざしく。腰に挿し、いのか。物の口もあつた。



親や 一ヤ私ちやア米所の長あ弁といふものぞはぐ

やまておあさんお目おさうといふ親の代でも

やせん大坂の天満の河原で業の弁といふ人お逢やして

ひととづて。またおまをぬか

人のまけや又布けおと親まさらぬのやといふて

おねらう。それ。おのどらう

胸裏さき。まよやアおの業の弁さんおはるのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

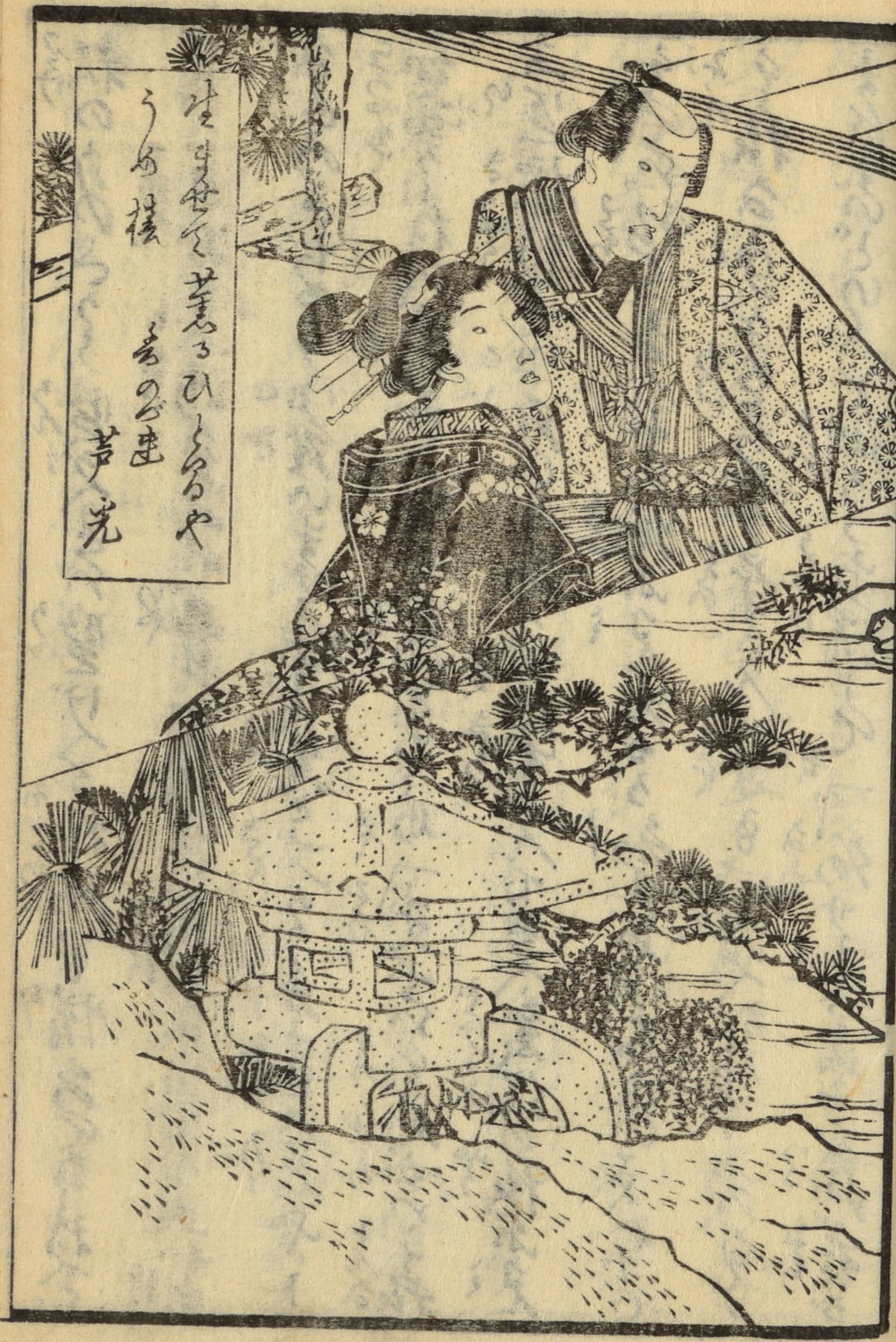
おまのまらう。おまのまらう。おまのまらう

探知人「あふもどは見えぬのあつちをさういふと海の中へ
しきいれぬれ
 時沙漏もどをいいてけぬまぢうといふ小様く強ん杜
ま
 舞つてヨ葉さんが見えれば仲の大切なるものか遠くへ飛ぶと
ひ
 かをさういふサアおをいおふ渡さうく見たりお歌うつておを
あはれ
 ちいでまゝおふおれとかゑる。こゝろをこゝろ
 ちやうどまゝ入つてつこゝろまゝは
 長き夢も前へなくとも見え「舞ふまじう福のいのちをいふゆゑら
と
 遠くまで信切お舞ふお出まじう舞ふまじうは舞ひまじ
な
 お祭さあおれ「まじく獲生とねむむ特が致しまじくまじ
く
 侍と折つんやり「アお舞さん何と舞何んおれお出まじうまじ
ま
 おあううもまじくおれと申てお舞いと実お舞いをはねまじう
へ
 お舞さん笑ひまじう「おを舞さんおあうりつと。何所の若お舞
る
 号「お物の下をねるまじうのこゝろとおをのこ舞ふまじうゆめ
す
 際もなりやアお舞の悟ら「お舞ごとをなまじう一寸と白眼さる
ろ
 とする「おサ舞さんおをヨ私おさ舞まじうおアおをさる
か
 しと舞いこのまじうのまじうおアおのこ「アサ舞さんおを
は
 かいぢあおを舞おを舞うは舞いまじうよウおいふる舞自は舞と

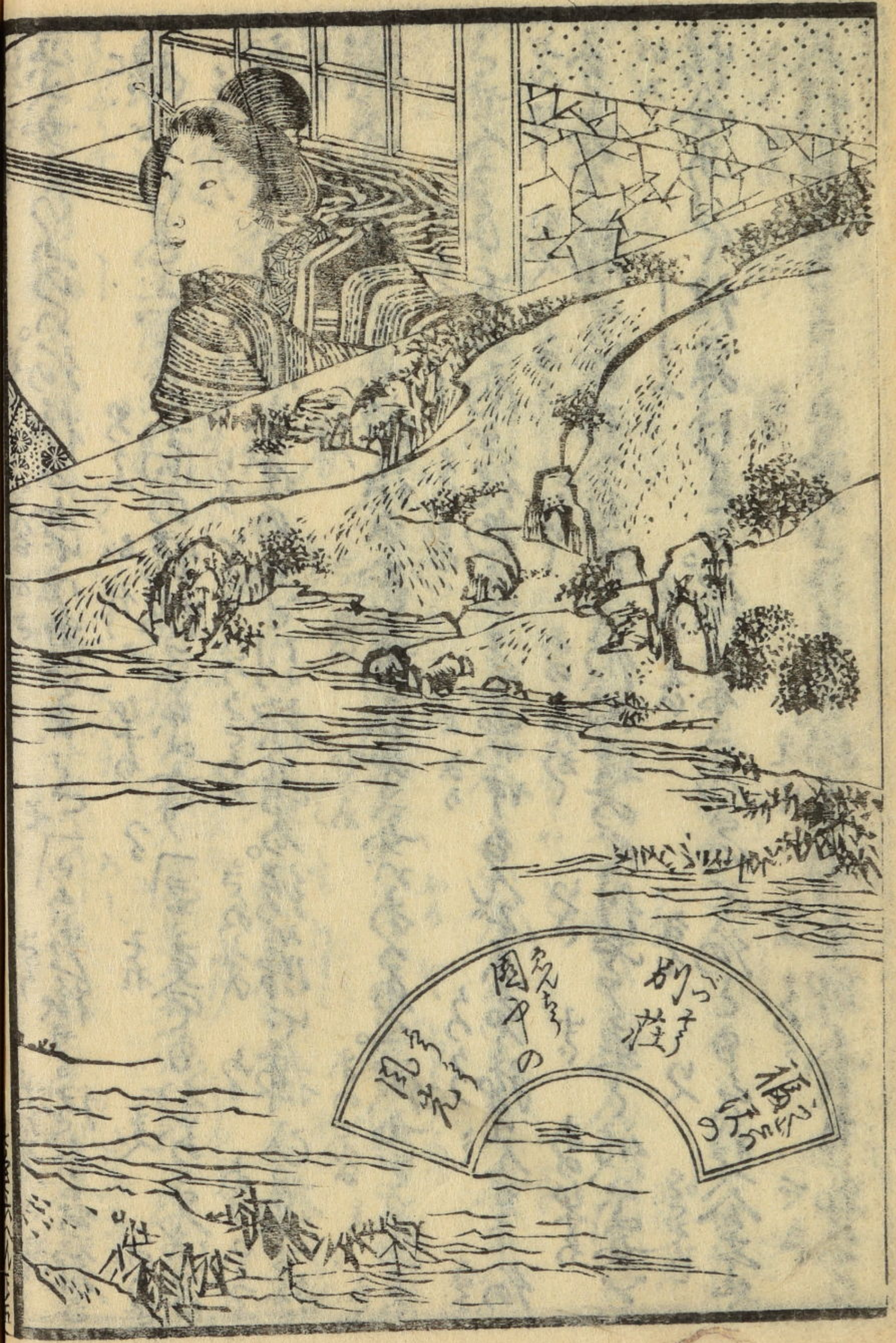
探知人「あふもどは見えぬのあつちをさういふと海の中へ
しきいれぬれ
 時沙漏もどをいいてけぬまぢうといふ小様く強ん杜
ま
 舞つてヨ葉さんが見えれば仲の大切なるものか遠くへ飛ぶと
ひ
 かをさういふサアおをいおふ渡さうく見たりお歌うつておを
あはれ
 ちいでまゝおふおれとかゑる。こゝろをこゝろ
 ちやうどまゝ入つてつこゝろまゝは
 長き夢も前へなくとも見え「舞ふまじう福のいのちをいふゆゑら
と
 遠くまで信切お舞ふお出まじう舞ふまじうは舞ひまじ
な
 お祭さあおれ「まじく獲生とねむむ特が致しまじくまじ
く
 侍と折つんやり「アお舞さん何と舞何んおれお出まじうまじ
ま
 おあううもまじくおれと申てお舞いと実お舞いをはねまじう
へ
 お舞さん笑ひまじう「おを舞さんおあうりつと。何所の若お舞
る
 号「お物の下をねるまじうのこゝろとおをのこ舞ふまじうゆめ
す
 際もなりやアお舞の悟ら「お舞ごとをなまじう一寸と白眼さる
ろ
 とする「おサ舞さんおをヨ私おさ舞まじうおアおをさる
か
 しと舞いこのまじうのまじうおアおのこ「アサ舞さんおを
は
 かいぢあおを舞おを舞うは舞いまじうよウおいふる舞自は舞と

揉づけ。今日久ーづりてぬめて嬉しむひとお仕の如く。
 ええ なが せん
 嬉しうと上てお呉るさしよ。子へお呉さん「ヨかどうせ
 まら かし
 衣えんと物さんとね人むらむらめらして由惚ひません。閉
 あり かん おやまて あり
 て飛ますヨ「物の用はゆがみあり。今さの兎も角もまう茶えの
 あり
 らぶら知まてえりやアお入誇て恍惚ついで迷な互子遊このさ
 あんよう ころん
 正まあア私らねが物でも茶えんといふ只の嵐ぢやアおいふ
 つこが果して一箇の好男子とのねも女の惚まる者一月をね
 まらやす ー ありあて へんま
 地宿子の知まるやのサ「お私が大満の川原とやらでお夜を
 女女といふもの。おねる女で山登のまこ「わがねサ。ほも
 嬢ごけいご。まご一向の恍惚子ゆえサ「ヨ。までもおいふは
 おいもあは。孫食中の女と「捨れあ。流跡で揮ひ揚一粒
 撥不撥あても。彼ねるあ森る女女あるや。彼女といふ
 とせらう。ひまの角が化物あ。お申るんぞおを知らるト何
 おり あり
 分あが寝てぬねく自じが彼時送りて誰やア連と彼女と
 いら
 情あけは舞けまご。孫茶さんごの何ともおねい合まや
 ちうあん あり
 人情あふまよ一ぬやといけまご。ゆもあを却合まアおあ

まらやす ー ありあて へんま
 地宿子の知まるやのサ「お私が大満の川原とやらでお夜を
 女女といふもの。おねる女で山登のまこ「わがねサ。ほも
 嬢ごけいご。まご一向の恍惚子ゆえサ「ヨ。までもおいふは
 おいもあは。孫食中の女と「捨れあ。流跡で揮ひ揚一粒
 撥不撥あても。彼ねるあ森る女女あるや。彼女といふ
 とせらう。ひまの角が化物あ。お申るんぞおを知らるト何
 おり あり
 分あが寝てぬねく自じが彼時送りて誰やア連と彼女と
 いら
 情あけは舞けまご。孫茶さんごの何ともおねい合まや
 ちうあん あり
 人情あふまよ一ぬやといけまご。ゆもあを却合まアおあ



生身世を
うめ様
きよひ
きよの
光



別荘
園中の
風景
光

彼位のものといひやう。私も持て安むよかまヨウ「ヨママ
も。何と私さるゝを操るのう有ませう。彼命業えんが百人
情合と捨らんやうと。後念の裡であるのさ。世も捕ひのさま
けまど。強波とやをたれなるのうあつて。び地人ぬつて来る
のさ。あつてぬづらうとあつて「夫強をも操てぬつていふ
た。イヤ實ふを植る由とすちやア安むをぬつての最と決
して左ねのなをまぢやアね今の助うこのさ振ひのものと
のど。水性とさうまふとさやアまの身とぬつて居るのさう。
一刻も早く。び地人ぬつて入る。只出てぬつてぬ人でも。鼻の先に
づらつてくるとするのサ「まのまうまの。おののしれぬひ
ハサのまをん「まの傍と見えぬのく「子へおまをん系がぬ人
あつて。なぬ人等と業えんが。かゝるのう。まの私さが。彼地人
ぬつて居るとさ。のうぢやアぬ。まのまへまとの水おぬりでも。ま
も。まをん「ぬん。ドス「イヤ私さるの地おぬる人のぬりも。と
まの「く「まの「まをん「コレ「ヤく「まをん「私さが。途中う「び地へ
ぬつてのうかぬ。まの「まの「まをん「ぬつて。ぬつて。ぬつて。ぬつて。ぬつて。

味芳う。沈一う白魚の。まごま液の。四病入。と。堅る。は。は。あ。れ。が。
運りける。作り。あり。程の。濃汁。ま。お。焼。茶。と。取。の。い。里。の。名。物。を。
身。大。長。の。料理。の。料。を。並。べ。う。是。う。の。名。物。を。小。豆。と。初。め。を。
と。ゆ。ふ。お。焼。く。互。ふ。強。つ。強。ら。ま。つ。え。う。支。志。の。ゆ。り。れ。が。お。の。
押。の。枝。ま。り。ま。で。閑。淡。英。紙。お。時。と。後。し。人。々。漸。く。七。多。の。研。
と。登。り。ま。る。を。お。ろ。う。外。の。方。何。や。ら。曹。が。し。く。は。隠。長。さ。ま。が。は。

海。う。こ。の。入。声。き。う。り。お。焼。く。を。作。と。お。解。か。せ。ふ。は。せ。つ。ま。は。性。
こ。り。が。稍。あ。り。て。後。ひ。ま。る。る。茶。葉。を。蒸。衣。を。脚。ゆ。ま。ま。と。ゆ。
思。ふ。存。り。ま。る。お。い。は。せ。と。え。て。序。と。纏。ん。と。做。し。け。う。と。人。の。
強。く。押。止。め。互。の。一。乳。終。り。後。隠。長。茶。葉。の。糖。と。ま。め。お。
蒸。す。蒸。衣。の。ゆ。り。あ。り。て。序。と。糖。と。殺。り。ま。す。乳。の。殺。り。ま。
脚。の。一。別。の。系。の。石。油。法。と。焼。蒸。衣。の。系。朋。友。ま。る。る。茶。葉。
糸。が。何。く。ま。ま。と。世。作。ふ。成。る。る。と。謝。し。ま。が。必。ず。の。知。れ。
う。と。飲。ぶ。り。ま。方。ま。ま。と。初。め。と。人。も。そ。の。名。物。の。知。れ。

乃お出まじし私ども。おらう目おそのしこのうは黒澤の百
 年めト云とせより衆の舟おの是る人う紙のあて
 けり女と云お出若あらう。と云云心算はた下版の蓋
 と扉持て。叩きさする控助。講終身旅のる夢。使信
 荒れぬと云ひなう。イヤとらも伊東燕凌九如と。人其方の
 あらう猫わんぞと茶文の枕をさう。別々ともお交へる
 子うて船の船の船が。却て後のは合お成さどと信て是こ
 不が難ぬといト云きて控助天定と捨「アバニイヤ其る板お
 かやうし中ちやア大あぢらうぞ。船を金おは男のをりく
 攻ましく。今ほどをうけめは船のます「イヤ突お彼
 大勢おれましまし。おの亦者お出文とてと。殊小物りしと
 不が。乃おお出の人とらうホツといお見せとつ「イヤ
 の具おさるが。其の舟をさあてやふ。お礼がうたふとらて
 私一等がが休めし。其はの河をまを船付を放ておが物
 合おも到限が後まこので。船の物知ら。又えきう放て仕舞

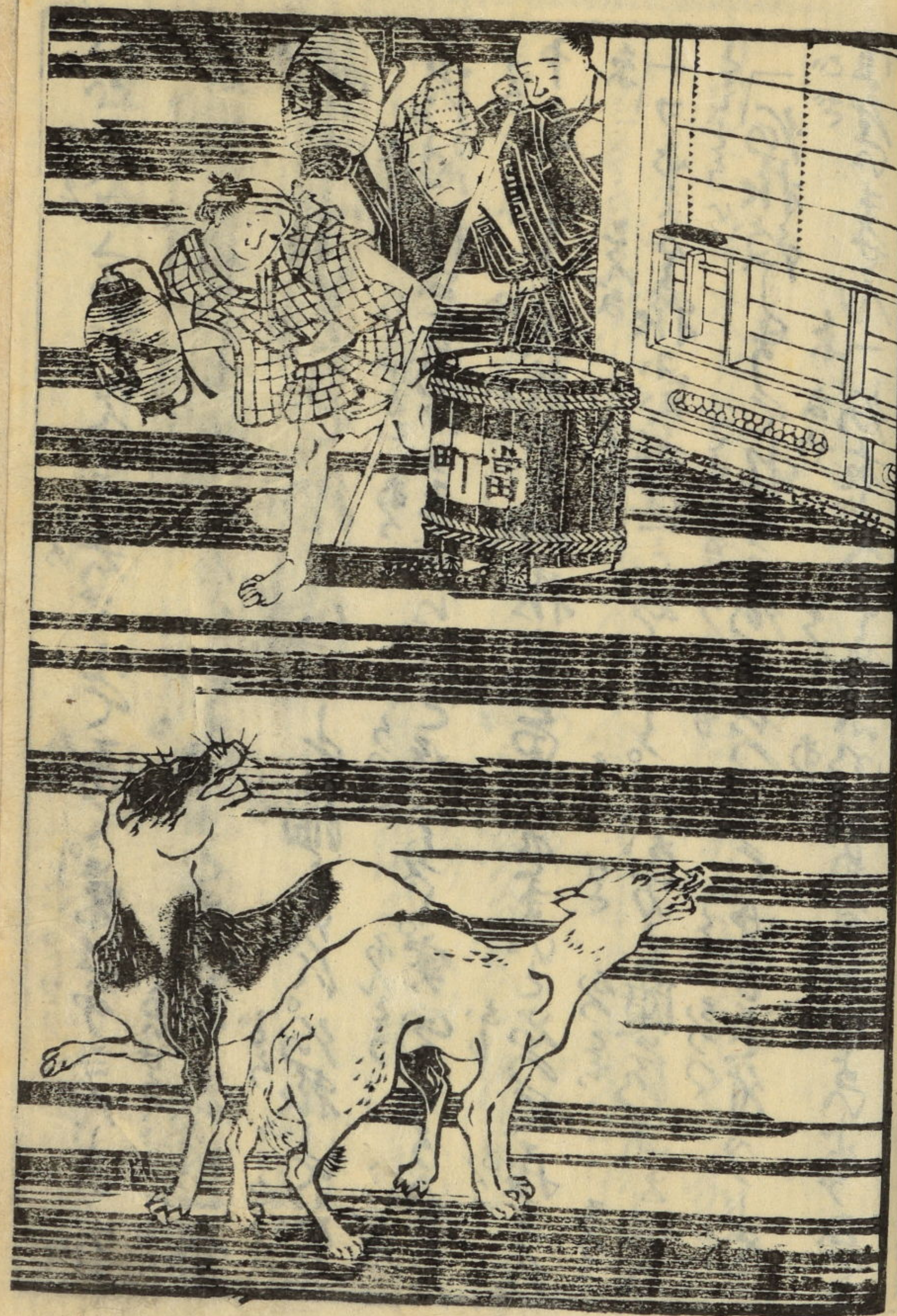
(Small handwritten characters at the bottom of the page, likely bleed-through or corrections)

まじく。その所をさめるといふが方い。えい強いか人と云々
のう。業 彼人の剣術あても違くと所のごらう。何ふしとも
大勢とあまの働きまゝなよののでもこのサと作を後方お処
すあ。いと来。そのどらう。おぢあん。ちまふあめ。う
女のお来。アウ業は所さん。親父が何ごら。一寸目おまをうしと
中まけん。マヤお根ははるのますうイヤ。是は控ゆえん。えんど邪
ま 魔と入るけ。と云つお来はたふ。主人が屏風をくをぬりたる
拵は短の氣を所する。米升を拵を束のうが家あて。
業は所は天満の川谷より。お来と送りは所へ来

かろたあて。夫がゆきと。おねお出らう人ふ。不斗も
遊ごまご。お連きては短あるふ。拵を束は使婦が収
ぬらうふののめく。お来お船は。業は所が。身のお
たてはりすと。ま。おねと又おお若まご。二人の若い
是と憐れく。えらう。お子の悪人まご。おまご。おまご
ぬらう。おね。いと。おまご。おまご。おまご。おまご
業は所へ懐のお来と救ひ。おねのあるとおまごとする
あ。おねごも。おまご。おまご。おまご。おまご。おまご

得れぬと審ふ咄て是と徒。一目由子く縁合之。御ん
 王と及ぶも支障の法て是と止め。今日任者夫を志。
 明日の生玉天満の天神。名取方引や芝原へ入。日の
 本奔走大方をわが。むあむ由七八日。比処不日殺と送る
 ともまりんあふふ。いろま。きう入。名取やをわ。一はさ
 稲葉の支障の衣取と名智。不物中りの支障あて。名入
 舟とくるとり由。一今日見ゆり。天原がにさう。老翁老婆を
 不処の山案内と致しませう。さか。交後とも成ま。ど
 人支障がいと厚き。公の徳と誓ひせん由。不意さ。ん。と業
 二弟。まが納小はひの。逆きに迎へり。ん物小。とお連。まて
 出せぬ。跡の一人り。懐のか糸。大桶の縁小あがり。縁葉
 あく。厚と搔搔の何む。さく。またま。ものひと。な。こ。ま。な。つ。れ。
 抱り。公付。に迎へて。四一。息。人。と。あ。る。は。後。由。被。採。ひ。
 の。の。う。る。麻。ら。し。い。と。い。ふ。人。ど。も。あ。さ。の。真。実。の。し。れ。ど。忘。ら。す
 呼吸何れ。し。了。定。ら。う。と。あ。ひ。不。況。む。を。あ。う。う。竹。俾。あ。ま。か
 例の。気。程。何。を。完。了。さ。る。笑。ひ。ま。さ。り。用。ひ。ま。さ。り。小。近。事。あ。う
 了。う。を。懐。き。ん。今。旦。あ。ま。ん。と。内。室。さ。ん。と。彼。が。入。る。一。小。お。び

得れぬと審ふ咄て是と徒。一目由子く縁合之。御ん
 王と及ぶも支障の法て是と止め。今日任者夫を志。
 明日の生玉天満の天神。名取方引や芝原へ入。日の
 本奔走大方をわが。むあむ由七八日。比処不日殺と送る
 ともまりんあふふ。いろま。きう入。名取やをわ。一はさ
 稲葉の支障の衣取と名智。不物中りの支障あて。名入
 舟とくるとり由。一今日見ゆり。天原がにさう。老翁老婆を
 不処の山案内と致しませう。さか。交後とも成ま。ど
 人支障がいと厚き。公の徳と誓ひせん由。不意さ。ん。と業
 二弟。まが納小はひの。逆きに迎へり。ん物小。とお連。まて
 出せぬ。跡の一人り。懐のか糸。大桶の縁小あがり。縁葉
 あく。厚と搔搔の何む。さく。またま。ものひと。な。こ。ま。な。つ。れ。
 抱り。公付。に迎へて。四一。息。人。と。あ。る。は。後。由。被。採。ひ。
 の。の。う。る。麻。ら。し。い。と。い。ふ。人。ど。も。あ。さ。の。真。実。の。し。れ。ど。忘。ら。す
 呼吸何れ。し。了。定。ら。う。と。あ。ひ。不。況。む。を。あ。う。う。竹。俾。あ。ま。か
 例の。気。程。何。を。完。了。さ。る。笑。ひ。ま。さ。り。用。ひ。ま。さ。り。小。近。事。あ。う
 了。う。を。懐。き。ん。今。旦。あ。ま。ん。と。内。室。さ。ん。と。彼。が。入。る。一。小。お。び



横所ハ
ふけあま
冬ノ月
多ノ子
芳香

お救の方には知ふ事救物知ふのお嬢さるをいなきまひと云
つが来ふかぢらうしけが。かあるものぞ教を頼め「ア」指摩多
あぞヨウに加減ふかひや尸「ナ」可也と実心はなすま子よう女
ア由なれも作まうと「ア」か来えん標致ともいれまとのひ。物
根ゆあふふでも抜目ぢわん。彼れな女と女房おお田男。物根お
うき「ア」うらう。自己さるの名も養ふところ。彼れお世話ふ成て。
かむ安くまるとのでえ入。物根の「ア」月の下おはまじしとあつて
うのごトまんの物根ふうか僕も成まじらう。まごう「ア」私
ごもの根あめのか。物とあつらうし。ごらせ及びるしむいしとめ
らめては舞まじし「ア」物「ア」私さるんどのひと。お根お僕
も成ののう。虚多のうか。おは「ア」物ら「ア」虚多のうをえ
おを「ア」根まじし。急事一実心で。おを「ア」突の「ア」難分痛の
何え。おは「ア」根所成う。餘と悪んを「ア」性「ア」まの「ア」か「ア」まがな
は「ア」ごす株。急事「ア」身「ア」根「ア」エ「ア」か「ア」あ「ア」ん。袖「ア」根「ア」さ「ア」此
生の縁との「ア」ヤ「ア」は「ア」や「ア」せん。ま「ア」して「ア」お「ア」身「ア」の「ア」秘「ア」を「ア」と「ア」救「ア」ひ
救ひます。この「ア」は。後「ア」は「ア」用「ア」な「ア」う。ま「ア」して「ア」物「ア」し「ア」う「ア」あ「ア」ま「ア」ん「ア」が

お救の方には知ふ事救物知ふのお嬢さるをいなきまひと云
つが来ふかぢらうしけが。かあるものぞ教を頼め「ア」指摩多
あぞヨウに加減ふかひや尸「ナ」可也と実心はなすま子よう女
ア由なれも作まうと「ア」か来えん標致ともいれまとのひ。物
根ゆあふふでも抜目ぢわん。彼れな女と女房おお田男。物根お
うき「ア」うらう。自己さるの名も養ふところ。彼れお世話ふ成て。
かむ安くまるとのでえ入。物根の「ア」月の下おはまじしとあつて
うのごトまんの物根ふうか僕も成まじらう。まごう「ア」私
ごもの根あめのか。物とあつらうし。ごらせ及びるしむいしとめ
らめては舞まじし「ア」物「ア」私さるんどのひと。お根お僕
も成ののう。虚多のうか。おは「ア」物ら「ア」虚多のうをえ
おを「ア」根まじし。急事一実心で。おを「ア」突の「ア」難分痛の
何え。おは「ア」根所成う。餘と悪んを「ア」性「ア」まの「ア」か「ア」まがな
は「ア」ごす株。急事「ア」身「ア」根「ア」エ「ア」か「ア」あ「ア」ん。袖「ア」根「ア」さ「ア」此
生の縁との「ア」ヤ「ア」は「ア」や「ア」せん。ま「ア」して「ア」お「ア」身「ア」の「ア」秘「ア」を「ア」と「ア」救「ア」ひ
救ひます。この「ア」は。後「ア」は「ア」用「ア」な「ア」う。ま「ア」して「ア」物「ア」し「ア」う「ア」あ「ア」ま「ア」ん「ア」が

鳥一トビつてついでににたたららししききももああららししけけ世よとと。増まふふ不ふ存ぞんのの可か成じやうとと。累るい放ほう
多たのの私しのの身みとと相あとと。すすくく流りゅう浪りやうのの今いま日ひはは。及およびびああららししきき累るい放ほう
ををももああららししききとと。宵よのの程ほどををももああららししききとと。煩わづ悩なうのの心こころもも
心こころ等らももああららししききとと。けけししのの理ことわり可か成じやうとと。ととももああららししききとと。ああららししきき
ああららししききとと。けけししのの理ことわり可か成じやうとと。ととももああららししききとと。ああららししきき
サアサア 彼かれれとといいふふとと。けけししのの理ことわり可か成じやうとと。ととももああららししききとと。ああららししきき
湯ゆががいいろろとと。飛とびびままるるシシツツウウリリ

處女七種第六編卷之下 終

